

常陸大宮市地域公共交通計画

概要版



I. 計画策定の背景・目的

常陸大宮市の地域公共交通は、JR常陸大宮駅周辺を中心として、鉄道（JR水郡線）、路線バス、高速バス、タクシーのほか、市内全域をカバーする乗合タクシー、スクールバスなどが運行しており、市民の日常生活の移動手段としての役割を担っています。

しかしながら、高齢化の進行等によりその重要性が年々増している一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用者の減少や燃料費の高騰など、交通事業者を取り巻く環境は厳しい状況であり、その維持が大きな課題となっています。

こうした状況を踏まえ、本市にとって持続可能な地域公共交通網を形成し、公共交通サービスの維持確保を図ることを目的として、地域公共交通のマスタープランとなる「常陸大宮市地域公共交通計画」を策定しました。

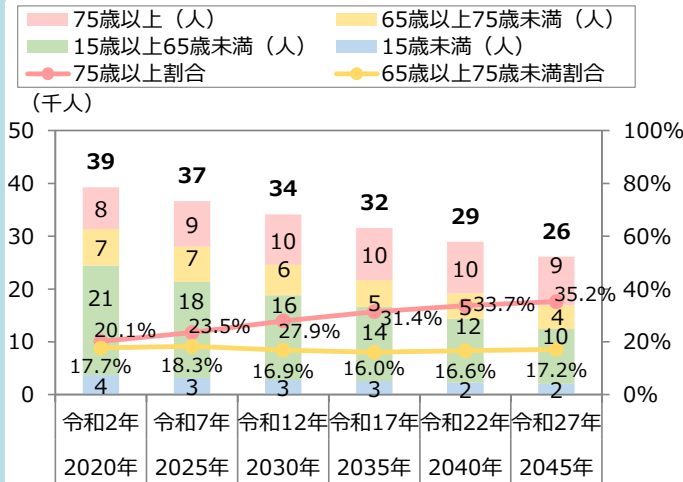
II. 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

Ⅲ. 市の現状と課題

人口減少及び高齢者の増加

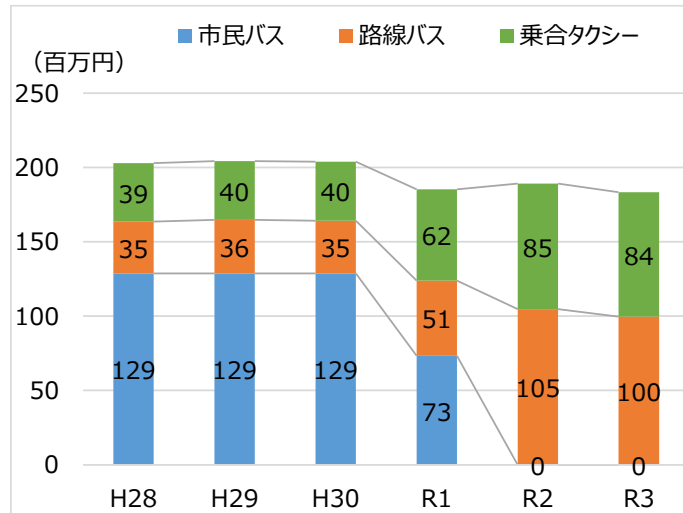
人口減少は今後も続くことが見込まれている一方で、75歳以上の人口は増加することが見込まれています。



人口減少に対応しつつ、交通弱者の増加に対応した公共交通の検討が必要

高水準で推移する市負担額

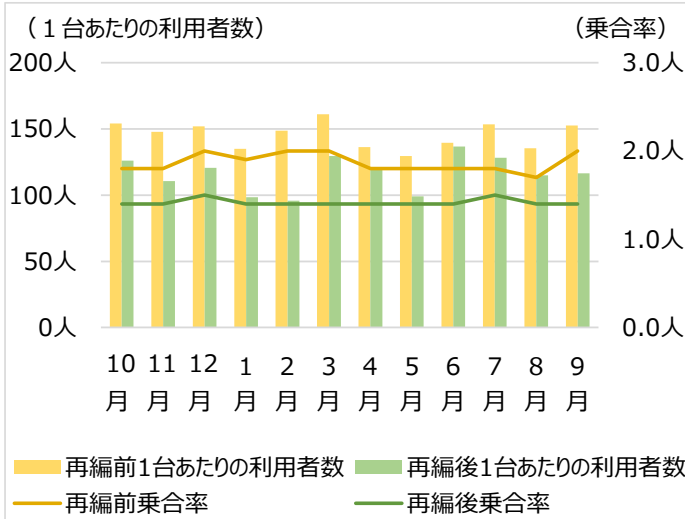
令和元年度の公共交通の再編により、経費が若干減少したものの、令和3年度現在で約1.8億円の経費を市が負担しています。



人口減少や地域の実情に応じて、運行形態や運行方法の効率化が必要

効率化が求められる乗合タクシー

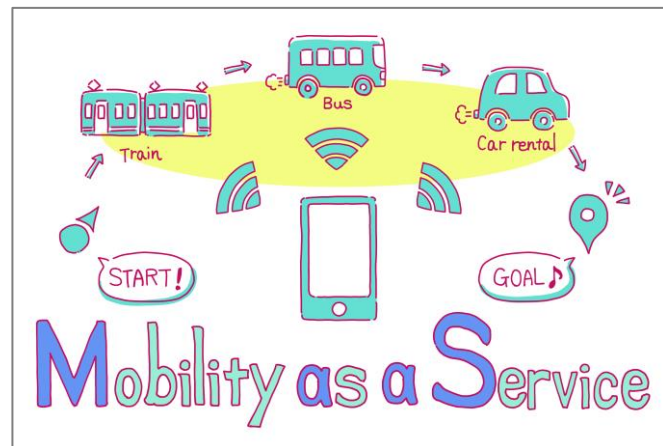
乗合タクシーは、令和元年度に車両台数を大幅に増やした影響から、1台当たりの利用者数や乗合率が減少しています。



乗合率や利便性の向上に向けた乗合タクシーの高度化の検討が必要

公共交通と新技術の連携

情報通信技術 (ICT) の発達に伴い、AIやMaaS (※) などの次世代の移動サービスの発達が進んできています。

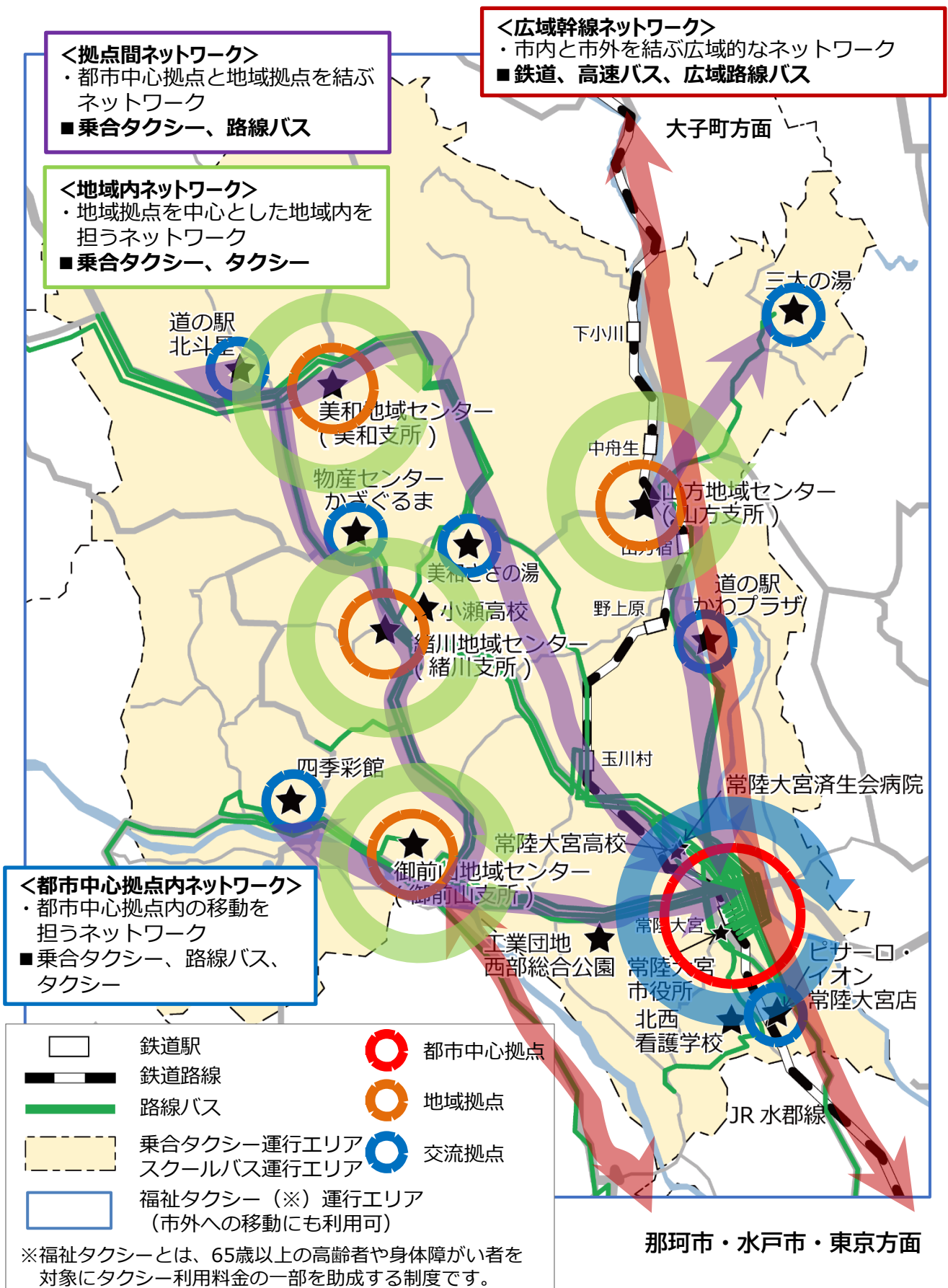


※MaaSとは、一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通などの移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスです。

ICT等のモビリティの新技术開発に伴い新技术を活用した公共交通の検討が必要

市内の公共交通網

各公共交通の機能及び役割は以下のとおりで、持続可能な地域公共交通体系の構築に取り組めます。

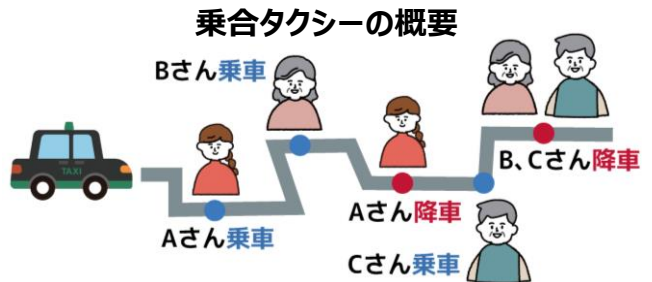


IV. 計画の基本理念と基本方針

住みたいまちを支える、持続可能で便利な地域公共交通 ～みんなで「つくり」、「守り」、「育てる」地域公共交通～

基本方針1 まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成

地域拠点が各地域に形成されており、拠点周辺に集落が広く分散している本市の地域特性に対応し、集落から地域拠点までの移動、地域拠点から都市中心拠点となる常陸大宮駅周辺までの移動の維持確保・充実を図るため、引き続き乗合タクシーを基軸とした地域公共交通網の形成に当たり、乗合タクシーの高度化に向けた取組を進めるなど、各交通モードにおいて効率的な運行や路線再編等の検討及び見直しを行います。



基本方針2 誰もが便利でわかりやすく利用できる地域公共交通サービスの提供

高齢者、学生、通勤者、子育て世代、観光客などが地域公共交通を利用しており、見やすく、わかりやすい情報提供、使いやすい施設や車両の整備など、地域公共交通を利用しやすい環境を整え、利用促進を図ることが重要となります。

そのため、誰もがわかりやすく、利用しやすい地域公共交通網の形成を図るため、便利で快適な利用環境づくりや公共交通情報の提供・発信を行います。



基本方針3 多様な主体による地域公共交通を支える仕組みづくり

地域公共交通を持続させていくためには、交通事業者の自助努力や行政の支援のみならず、地域に住む一人一人が公共交通に興味と愛着を持ち、その利用促進に主体的に関わるなど、地域全体で公共交通を支えていくことが必要となります。

そのため、地域公共交通サービスに係る情報発信を行うとともに、各種体験イベント等の実際に公共交通に触れる機会を創出するモビリティ・マネジメントの手法を取り入れ、市民、交通事業者、行政等が連携し積極的な利用促進を図ります。

V. 評価指標

基本方針に沿った計画の目標、目標を評価するための評価指標について、以下のとおり設定します。

計画目標 1 地域の特性とニーズに対応した効率的な運行形態の構築

市民等の日常生活における移動手段を確保し、減少傾向にある地域公共交通利用者数の改善を図るとともに、公共交通の効率的な運行を図ることで、増加傾向にある地域公共交通に係る市負担額の抑制を目指します。

評価指標

地域公共交通利用者数
現状値（R3年度）：48,881人
⇒ **目標値（R8年度）：48,881人**

地域公共交通の維持に係る市負担額
現状値（R3年度）：183,331千円
⇒ **目標値（R8年度）：163,500千円**

計画目標 2 利用しやすい地域公共交通の環境整備

地域公共交通を利用しやすい環境を整備することで、利用者の満足度の向上、公共交通の利用促進及び高齢者等の運転免許証の返納促進を目指します。

評価指標

地域公共交通に対する満足度
現状値（R4年度）：32.9%
⇒ **目標値（R9年度）：35.0%**

高齢者運転免許証自主返納者数
現状値（R3年度）：179人
⇒ **目標値（R8年度）：190人**

計画目標 3 地域公共交通の利用促進と意識啓発の実施

地域公共交通サービスの積極的な情報発信により利用を促進するとともに、利用促進に主体的に関わっていくためのきっかけづくりとなる取組を展開することで、「地域公共交通は、みんなでつくり、守り、育てるもの」という意識の醸成を図り、多様な主体による地域公共交通を支える仕組みの構築を目指します。

評価指標

公共交通乗り方教室の実施回数
現状値（R3年度）：1回（年間）⇒ **目標値（R8年度）：8回（年間）**

VI. 目標達成に向けた施策

計画目標や評価指標の達成に向けた施策を以下のとおり位置づけます。

基本方針 1 まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成

乗合タクシーの見直し及び高度（AI化）

- 本市の地域公共交通の基軸である乗合タクシーにおいて、AIデマンドシステムを導入し、利用者ニーズへの対応と運行の効率化を図ります。



路線バスの見直し

- 路線バスの利用実態や財政負担を踏まえ、地域の実情とニーズに対応するため、現在の運行内容を再検討します。

地域における輸送資源との連携の検討

- 輸送資源の総動員の観点から、路線バスや乗合タクシーだけでなく、JR水郡線、高速バス、福祉タクシー、一般タクシー、その他送迎サービス事業を含めた総合的な公共交通の構築を検討します。

基本方針 2 誰もが便利でわかりやすく利用できる地域公共交通サービスの提供

交通結節点における環境整備

- 常陸大宮駅などの主要交通結節点において、誰もがわかりやすい案内板の設置や待合環境などを整備します。
- 例：デジタルサイネージの設置など。



ラストワンマイルの環境整備

- 主要な交通結節点の周遊性向上及びラストワンマイルの公共交通を検討します。
- 例：シェアサイクルなど。



MaaS等の新たなモビリティの環境整備

- 全国各地で実証実験が行われているMaaS（マース）やAIオンデマンド交通等、新たなモビリティサービスの活用を関係者と連携し検討します。

利用しやすく、乗りやすいバリアフリーに配慮した環境づくり

- 高齢者や障がいのある方をはじめ、誰もが安心して公共交通を利用できるように、バス、タクシー車両のバリアフリー対応車両への更新、鉄道駅や交通結節点のバリアフリー対策を進めます。

地域交通利用に向けた意識啓発

- ・教育機関や高齢者団体と連携し、出前講座や乗り方教室の開催、公共交通に関する情報提供及びリーフレットなどの配布を行い、公共交通の利用に関する意識を啓発することで、利用促進につなげます。

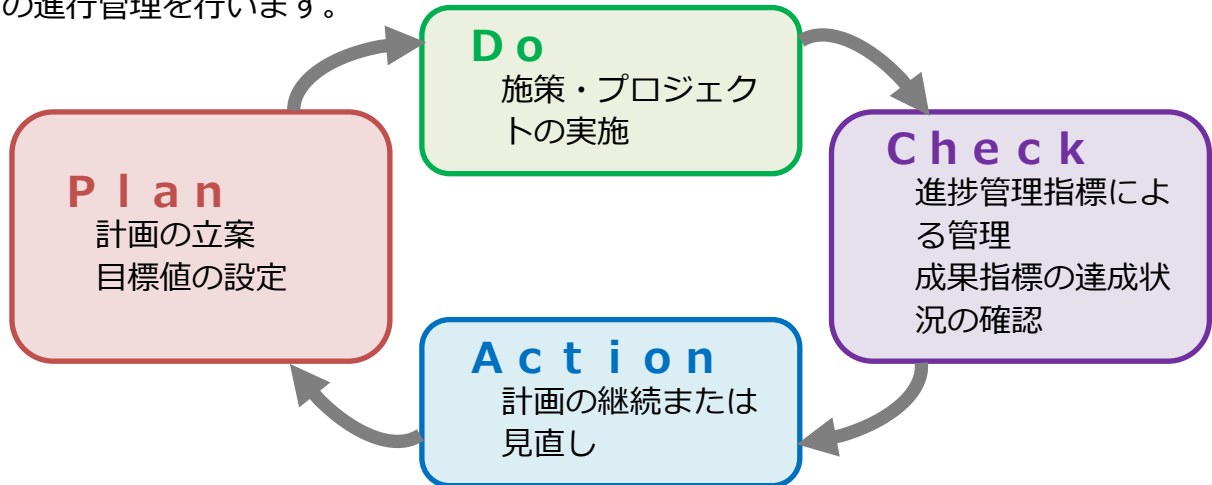


ICTによる情報発信

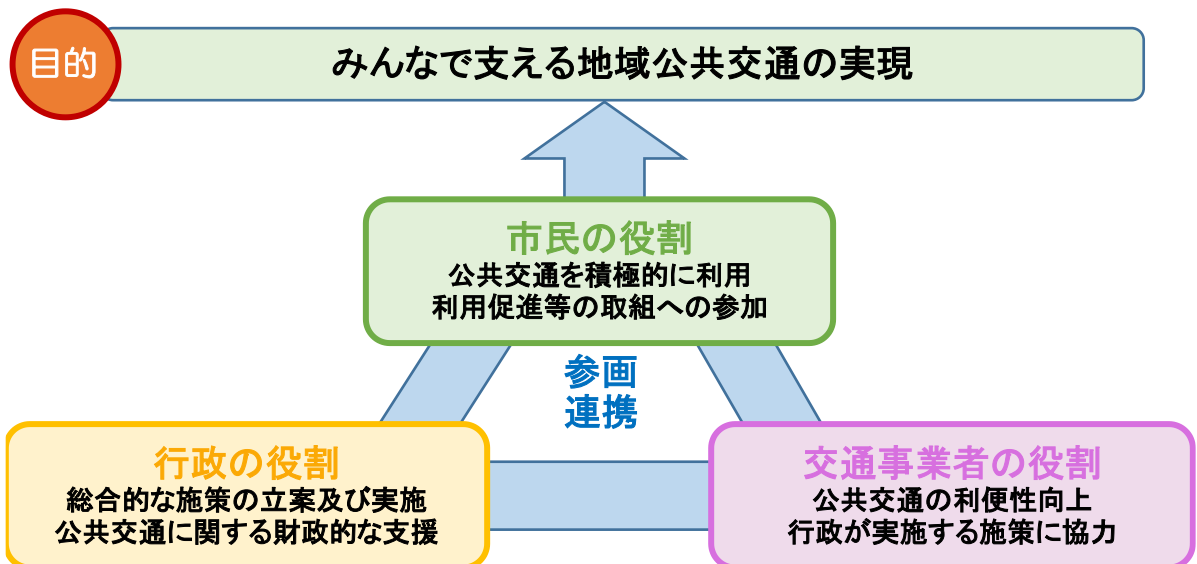
- ・バスロケーションシステム、ICTアプリの活用、ICTを活用した電子媒体での情報提供に向けたオープンデータ化など、最新技術を取り入れた取組について検討します。

Ⅶ. 計画の進行管理

目標に応じた評価指標の達成状況や取組の進捗状況を確認し、PDCAサイクル【計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→見直し（Action）】による計画の進行管理を行います。



また、本計画を進めるにあたり、本市の公共交通が目指す将来像の実現に向けて、「市民」「交通事業者」「行政」が連携し、一体となって取り組むとともに、それぞれが担う役割を相互に確認しながら、持続可能な地域公共交通の構築を目指します。



発行：常陸大宮市 地域創生部 地域創生課
〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6
TEL：0295-52-1111 FAX：0295-53-5415
HP：<https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>